

自己評価報告書

平成 23 年 3 月 31 日現在

機関番号：34304

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20720084

研究課題名（和文） モダニズム文学におけるベルクソン哲学の受容
ーキャサリン・マンズフィールドを中心に研究課題名（英文） The Reception of Bergsonian Philosophy in Modernist Literature:
Katherine Mansfield and Other Writers

研究代表者

中野 永子 (EIKO NAKANO)

京都産業大学・文化学部・講師

研究者番号：80411015

研究分野：英語文学

科研費の分科・細目：文学・ 英米・英語圏文学

キーワード：モダニズム文学

1. 研究計画の概要

この研究の第一の目的は、キャサリン・マンズフィールド (Katherine Mansfield) が他の多くのモダニスト作家に先駆けてアンリ・ベルクソン (Henri Bergson) の哲学に関心を示したことに着目し、マンズフィールドの短編小説のベルクソンの傾向について論じるとともに、マンズフィールドが英語文学の分野においてモダニズムの発展の過程で果たした役割を明らかにすることである。同時に、第二の目的として、ベルクソンの哲学が本人の生前から今日に至るまでにいかに評価され、誤解されてきたかを分析しながら、モダニズム文学とベルクソン哲学との関係を明確にする。

2. 研究の進捗状況

雑誌『リズム』(Rhythm) に携わることによってイギリスの文壇にベルクソン哲学を紹介する役割を担ったマンズフィールドと画家の J.D. ファーガソン (J.D. Fergusson) の作品を通して、ベルクソン哲学の影響について考察した。このことについては、平成 20 年 9 月にロンドン大学で行われたマンズフィールドのイギリスへの移住 100 年 (および生誕 120 年) を記念した国際学会において口頭発表 (“Katherine Mansfield’s Early Writing and Henri Bergson”) を行った。この学会に参加して以来、海外の研究者とのつながりが広がり、研究成果の発表の機会にも恵まれた。平成 21 年 10 月には国際的なものとしては初めてのマンズフィールド専門の学術雑誌 *Katherine Mansfield Studies* がエディンバラ大学出版より創刊されたが、第 1 号に論文 “Katherine Mansfield and French Philosophy: A Bergsonian Reading of

Maata” が掲載された。また、平成 23 年にイギリスで出版される予定のマンズフィールドに関する専門書の中の一章も担当することになり、平成 21 年度からその作業を行っている。マンズフィールドの初期の作品を中心に分析し、マンズフィールドが早い段階から「知性」と「直観」のバランスというベルクソンのテーマとともに音楽の比喩などのベルクソンの表現を取り入れていたことを明らかにした。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

論文や学会発表の数は計画を下まわっているものの、目標としていたとおり、ベルクソンのモダニスト作家への影響がより明らかになってきた。

4. 今後の研究の推進方策

今後は、これまでの研究をいかして、論文を執筆することに力を入れる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

①Eiko Nakano, “Katherine Mansfield and French Philosophy: A Bergsonian Reading of *Maata*”, *Katherine Mansfield Studies*, 1, 68-82, 2009, 査読あり

〔学会発表〕(計 1 件)

①Eiko Nakano, “Katherine Mansfield’s Early Writing and Henri Bergson”, The

Katherine Mansfield Centenary
Conference, 2008年9月4日, University
of London